

2050年の大阪の将来像に関するご意見

WAKAZO 執行代表 川竹絢子、薬王俊成 様

○ 大阪・関西万博のテーマである「いのち輝く未来社会」の考え方から、2050年の大阪の将来像の検討に向け、3つのキーワード【健康、持続可能、国際都市】を設定しました（別添有識者WG資料3，4ページ目を参照してください。）。それぞれの観点を中心に、委員の皆様が現時点で考える2050年の大阪のあるべき将来像があれば、自由に記載してください。

なお、キーワード以外の事項についても、幅広く記載いただいても結構です。

効率や物質的豊かさを重視してきた価値観から、個人の幸福や生き方を価値観の中心に位置付け、「Well-being」を各々が追求する社会がやってくるとWAKAZOは考えています。

そのため、大阪という都市が世界を惹きつける魅力を持ち続ける都市であるためには、大阪が強みとしてもつ医療・ヘルスケアが提供するものを、病気の予防・治療による【健康】から主観的な幸福も含む【Well-being】に拡大し、追求していくことが大切であると考えます。

また、AIなどのテクノロジーの発展やスマートシティ構想の推進によって、「個別化」された生き方を無機質に提示される時代の到来が予想される中で、各々が主体性を持って社会と個人の「Well-being」を追求することこそが、「いのち輝く未来社会」につながると考えています。

大阪の強みである医療・ヘルスケアを活かし、「Well-being」を牽引する持続可能な国際都市となるためには、アート・ライフサイエンス・テクノロジーの融合を通して「Well-being」を追求していくという観点から、下記の3つのことが必要だと考えます。

1. アート・ライフサイエンス・テクノロジーに、若者のクリエイティビティとコミュニケーション能力を掛け合わせることで、ひとの「Well-being」を醸成すること
2. ひとの「Well-being」に触発され、アート・ライフサイエンス・テクノロジーが、より人に寄り添ったものへと発展を促進すること
3. 醸成され、変化し続ける「Well-being」を、都市として、世代を超えて受け継いでいくこと

1. アート・ライフサイエンス・テクノロジーに、若者のクリエイティビティとコミュニケーション能力を掛け合わせることで、ひとの「Well-being」を醸成すること

若者のクリエイティビティ（＝純粋な問いかけと遊び心）とコミュニケーション能力（＝つながる力）。これこそが、「Well-being」醸成の触媒になる、と考えます。

【個人の心身健康づくり：ライフサイエンス×テクノロジー×若者】

AIによって自動化・個別化されたヘルスケアプランを提示され、健康づくりは市民が自分でできる時代。無機質におこなわれていく健康維持・促進を、若者の遊び心で、「楽しく」「納得できるもの」にしていきます。大学や専門機関だけでなく、若者から創出されるヘルスケアプロジェクトをより増やしていき、万博会場での実験的実装を目指します。

【個人の主観的幸福感の醸成：ライフサイエンス×アート×若者】

「自分にとっての Well-being はなにか」という問いを通して、個人の主観的幸福感
は醸成される、と考えます。この抽象的な問いかけを、ライフサイエンス分野の知見
をもとに、スペキュラティブデザインをはじめとしたデザイン・アートの手法とコミ
ュニケーションツールを用いて表現・問題提起をすることで、「個人の主観的幸福
感」醸成の「装置」を若者が担っていきます。また、この若者による装置を加速すべ
く、アート・ライフサイエンスを中心とした、若者対象のラボ開設を中之島再開発と
共に望みます。

【ヒト・人間への理解：ライフサイエンス×アート×テクノロジー×若者】

「Well-being」の主体であるヒト・人間に対する更なる理解を深めることで、社会
全体で追求していく集合的な「Well-being」を知ることができる、と考えます。「人
間とはなにか」を理解する手段として、「アート」、「機械と人間の比較」による人
間の理解と共に、分子生物学的基盤によるヒトの理解を行うライフサイエンスの基礎
研究・応用研究を中心とした「ヒト・人間への理解」に挑戦していきたいと思いま
す。この分野横断的な挑戦に、若者の「つながる」力を発揮して挑みたいと思いま
す。

2. ひとの「Well-being」が、アート・ライフサイエンス・テクノロジーを、ひとへ「寄 り添ったもの」へいくこと

若者が触媒となって醸成された「Well-being」という価値観に触発されて、ア
ート・ライフサイエンス・テクノロジーは、さらにひとへ寄り添い、「Well-being」を
向上させるものへと変化していきます。

【個人が描く Well-being を実現するためのライフサイエンス・テクノロジーの発展】

ライフサイエンス・テクノロジーの開発と「倫理的な議論の場」をセットで設ける
ことで、イノベーションは加速する、と考えます。例えば、万博期間中、世界中の人
が集まる万博会場で、若手の研究者、エンジニア、アーティストによるピッチ、プレ
ゼン、ディスカッション、プロトタイプのブラッシュアップが不断に行われる取り組
みを期待します。

【新たな Well-being を問いかけ続けるアートの発展】

個人の価値観・倫理観や主観的幸福は、常に移り変わっていくものです。持続的な
「Well-being」の追求のためにはその時代ごとに求められる「Well-being」のあり方
を問い続ける必要があるでしょう。大阪を訪れた人に、「いのちとはなにか」という
問いかけに向き合う時間を、アートを軸として提供し続けていきたいと思いま
す。

3. 醸成され、変化し続ける「Well-being」を、都市として、世代を超えて受け継いでい くこと

若者を触媒として醸成された「Well-being」は、大阪が持つアート・ライフサイエ
ンス・テクノロジーをも発展させる装置ともなり、都市として「Well-being」を継
承・世界へ発信していく大阪へと成長していきます。

【エピジェネティックな大阪】

変化し続ける「Well-being」を、世代を超えて受け継ぐために、ソフトの更新と共
に、ソフトを反映したハード、つまり建築・インフラの思想的更新も必要と考えま
す。大阪は歴史的に安定した統治が行われてきたことによって多様な時代のインフラ
や建築物を遺しており、貴重な価値があると考えます。また、大阪は市民が資金を出
し合って公共物を作ってきた歴史があり、市民が作り上げてきた都市像を具えた稀有
な都市です。そこで私たちは、長い時間軸で見た際に、建築物・インフラ自体が未来

の時代に適応しながら変化できることが重要だと考え、新たな都市デザインを大阪から提言、実践していく必要があると考えます。

具体的には、エピジェネティック*な都市像を提案します。つまり、建築物・インフラが造られる際にはそれらがその時代のニーズに沿った固有なものであるとともに、建築物・インフラ自体の時代変化に沿った変化を許容するものであること、また壊され更新される際にも全てが白紙になるのではなく、部分的に引き継がれうる部分を持っていることを特徴とする都市です。さらに大阪という独自性を具えるために、これらの更新が市民によって成されることが重要です。エピジェネティックな都市像の実現によって、ソフトの概念をハードでも体現し、長い時間軸で受け継がれ続け、歴史の重層性を保有した都市となると考えます。

* エピジェネティクス：DNA 塩基配列の変化を伴わない細胞分裂後も継承される遺伝子発現あるいは細胞表現型の変化、また先天的に与えられる DNA の多様性だけでなく、それを軸としながらも後天的な環境による性質の現れ方の多様性を表します。また、この後天的な多様性は、次の代にも引き継がれうるという性質をもちます。ここではこの概念を援用し、変化許容性と継承性を表します。

【Well-being を世界へ発信・推進していく街の形成：「Well-being」の指標づくり】

物質的な豊かさの追求を国際的に促進してきた GDP の次なる指標はどのようなものでしょうか。「ヒト・人間への理解」に基づいた新たな「Well-being」を測る指標を、大阪からつくることで、「Well-being」という精神性を重視する都市のありかたを、世界へ発信していける、と考えます。

【動的で刺激的な大阪】

「Well-being」を持続的に更新し、追求していくために、「やってみなはれ」精神を加速させ、世界中から挑戦者としての若者が集い続ける動的さと、若者が挑戦者として大阪を選ぶにたる刺激的な環境を両立した動的で刺激的な大阪の実現が重要となると考えます。そのために大阪府のビジョン推進室、及び大阪・関西万博の実行において、若者、可能であれば中高生を含んだ学生がランドデザインを構想、実行するフェーズで一役を担うことを、私たちは提案します。これらを通して、アート・ライフサイエンス・テクノロジーを中心に若者が活躍できるという独自性が際立つ大阪になることにより、より多くの一念発起した若者が世界から大阪に流入するという好循環を生み出しうる、と考えています。

万博を契機として、「健康」に新たに主観的幸福を付け加えた概念である「Well-being」を、大阪が持つ最先端のライフサイエンス・テクノロジー・アートをもとに、若者が触媒となって醸成し、それを持続的に享受かつ世界に発信していく都市に大阪が成長していくことを願っています。またその実現を私たち若者は担っていきたい、という決意をもって結びといたします。

-----ご記載いただく上での留意点-----

- 参考資料として添付している「大阪のめざすべき将来像を考えるうえでの視点」や「大阪の現状」、「人口推計」等をご参照のうえ、自由にご意見を記載してください。
- WG 当日に、各委員の説明時間（5～10分）を設けますので、資料の補足事項は、その際にご説明いただけます。
- 今後の取組みの方向性は、行政に限らず、民間などの取組みも含めて幅広く記載いただいても結構です。なお、本ビジョンが、2025年を目標年次としていることから、2025年に向けた取組みの方向性を記載してください。
- 行数が不足する場合は、適宜、新たな行を追加してください。
- ご提出いただいた本様式は、資料として配布するとともに、WG 終了後、HP 上で公表いたします。
- 本様式以外に、第1回 WG で提出を予定されている資料があれば、併せてお送りください。